

東海学生陸上競技春季大会

競技注意事項

1. 規則について

本大会は2022年度日本陸上競技連盟競技規則（日本陸連）ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。また、競技者は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」を適用し、違反する場合は注意を行う。

2. 参加校受付について

- 1). 参加校受付を、以下の期日・時刻・場所で行う。
- 2). 事前にフォーム（<https://forms.gle/tjdJiKN3FpGwtkK8A>）にて提出された管理確認書・来場者一覧を用いて受付を行うため、大会前日（8日）正午までに提出すること。
- 3). 万が一フォームの提出締め切りより遅れた場合は、紙媒体で当日提出すること。

期日	受付開始時刻	受付場所
4月9日・10日	8時15分	2階正面ゲート前

3. 競技場使用上の注意

- 1). 競技場は全天候舗装である。なお、スパイクピンは11本以内で長さは9mm以下とする。
- 2). 観戦はスタンドで行い、大会本部付近や競技エリア内には立ち入らないこと。また、声を発する応援は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わないこと。
- 3). カメラやビデオ等を用いた撮影許可を得ていない者の撮影行為は禁止とする。学生については原則として所属する大学のジャージを着用して撮影すること。学生以外で撮影を希望する場合は大会本部へ申し出を行い、撮影許可証を着用し撮影すること。
- 4). 競技会において競技者は、携帯電話やスマートフォン等の通信機器もしくはこれらに類似する機器を競技場エリア内で使用してはいけない。（競技規則144条）

4. アスリートビブス・腰ナンバー標識について

- 1). アスリートビブスは学連登録時に配布しているもの2枚を胸部と背部に確実につけること。
- 2). トランク競技の場合は腰ナンバー標識を両側につける。腰ナンバー標識は招集所で受け取り、レース終了後はフィニッシュ地点で所定の場所に返却すること。
- 3). 10000mWにおいては特別アスリートビブスと腰ナンバー標識を付けること。腰ナンバー標識は両側につける。特別アスリートビブス及び腰ナンバー標識は招集所で受け取り、レース終了後はフィニッシュ地点で所定の場所に返却すること。

5. 各種書類について

大会当日の各種書類の配布及び提出の窓口については、下表の通りとする。

書類・配布物	配布場所	提出先・依頼先
欠場届	招集所	招集所
記録証明書	総合受付（1F正面玄関前）	大会本部（1F正面玄関内）
管理確認書 来場者一覧	東海学連HP	フォームで事前提出

6. 招集について

- 1) 競技者招集所は、選手エントランス2（100mスタート側）に設ける。
- 2) 招集時間はタイムテーブルの通りとする。
- 3) 代理人による最終点呼は認めない。
- 4) 招集時間が他の種目と重なる場合、事前に主催者側が用意の重複届を競技者係に提出すること。
- 5) リレーオーダー用紙は主催者が用意したものに限る。オーダー用紙は招集所で配布する。リレー種目に出場するチームは、オーダー用紙を当該種目の招集開始60分前までに招集所(競技者係)に提出すること。
- 6) 招集完了時間に少しでも遅れると、当該種目を棄権したものとして処理するので十分注意すること。
- 7) 重複届を提出した場合でも、必ず本人または代理人が第一次招集を受けなくてはならない。その際、重複届の控えを持参すること。

7. 不出場（棄権）について

やむを得ず本競技会への出場を辞退する場合は、次の要領で「欠場届」を提出する。

- 1) 4月6日正午までは、春季大会事前棄権フォーム（<https://forms.gle/j1ktLh36YbXaNmTF7>）に入力すること。
- 2) それ以降に出場辞退する場合は、欠場届（招集所に用意）に必要事項を記入し、捺印（サインでも可）したものを招集所に提出すること。リレー競技においても上記と同様の手続きを満たし、招集開始の60分前までに欠場届を提出すること。
- 3) 招集に遅れた場合（コール漏れ）は当該選手（リレー競技の場合はチーム）を欠場とみなし、いかなる理由であってもその種目への出場を認めない。
- 4) 欠場届を提出しないまま欠場した場合、東海学連主催大会への出場を認めないことがある。

8. 用器具について

- 1) 棒高跳用のポールは、各自が持参したものを使用する。
- 2) その他の競技に使用する用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、投てき競技で、個人所有の投てき物の使用を希望する場合には検定を受けることで個人所有の投てき物の使用を認めること。
- 3) 破損に関しては、主催者側は何ら責任を負わない。
- 4) フィールド競技で使用するすべり止め（炭マグ）は、各競技者が個人で準備する。
- 5) 個人所有の投擲物の検定は、招集開始60分前から招集開始時刻まで行う。検定場所は以下の通りとする。

用具	検査場所及び返却場所
砲丸、円盤、やり、及びハンマー	100mフィニッシュ側倉庫内

9. ウオームアップについて

ウォームアップについては、別紙「練習会場注意事項」の通りとする。

10. トラック競技について

- 1) トラック競技の時計は、すべて電気計時（1/100秒）を用いて行う。
- 2) 以下の種目については、スタート後一定時間を経過して残り1周に達していない場合、または競技日程に支障が出ると判断した場合、審判長の指示により競技を中止させことがある。
目安 男子10000mW、女子10000mW…スタート後55分
- 3) 長距離種目のフィニッシュの際は、3レーンより外側を走行すること。先頭が残り1周となった時点で、3レーン付近に目印となるカラーコーンを設置する。
- 4) 1組に12名以上の競技者がいる場合、グループスタートを実施することがある。
- 5) 短距離種目では、衝突事故を防止するため、フィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーンを走る。
- 6) 10000mWにおいては、競歩審判員主任による単独失格権限ルール（TR54.4.1）を適用する。

11. フィールド競技について

- 1) 跳躍種目は、走高跳、棒高跳を除き、試技は3回までとする。
- 2) 棒高跳の競技場所での練習は、ゴム製バーを用いて行う。走高跳の競技場所での練習は、通常のバーを用いて行う。
- 3) 跳躍競技（高さで順位を決定する競技）のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以降
男子走高跳 Aピット	1m91/2m06	1m91	1m94	1m97	2m00	2m03	2m06	2m09	2m12	以後3cm
男子走高跳 Bピット	1m76m/1m85	1m76	1m79	1m82	1m85	1m88	1m91	1m94	1m97	以後3cm
女子走高跳	1m40/1m55	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	1m65	以後2cm
男子棒高跳	4m10/4m50/4m80	4m10	4m25	4m40	4m50	4m60	4m70	4m80	4m90	以後10cm
女子棒高跳	3m00/3m40/3m80	3m00	3m20	3m40	3m50	3m60	3m70	3m80	3m90	以後10cm

- ※1. 第1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。
- ※2. 第1位が決まった後にバーを上げる場合、当事者は該当審判員または審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。
- ※3. 天候等に応じて審判長の判断で開始の高さを変更する場合がある。また、天候に応じて上記のバーの上げ方を該当審判員または審判長の判断で変更する場合がある。

4) 走幅跳・三段跳について

男子走幅跳・男子三段跳は、スタンド側をAピットとし、トラック側をBピットとする。三段跳の踏切位置は男子Aピット12m、Bピット11m、女子10mとする。男子の踏切位置は資格記録により主催者側が変更する場合がある。該当審判員または審判長の判断で変更する場合もある。

5) 走高跳について

メインスタンド側をAピットとし、バックスタンド側をBピットとする。

12. シューズについて

- 1) 本大会はWAルールを適用し、規格外のシューズの使用はすべて禁止する。
詳細は、日本陸連発表「靴底の厚さ」を参照すること。
- 2) スパイクはトラック・フィールド共に11本以内で長さは9mm以下とする。ただし、走高跳及びやり投の場合は12mm以下とする。

1.3. コーチングエリアについて

本大会では、コーチングエリアを設置しない。

1.4. 給水について

5000m、10000m、10000mWについては天候に応じて水を用意し、バックストレート側に給水所を設置する。給水後のカップについて他の競技者の妨害になるような捨て方は厳禁とする。

1.5. 抗議と上訴について

競技結果の正式発表時間は、大会速報サイトに結果が発表された時間を基準とする。

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、結果が正式発表されてから30分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目は15分以内）に、その競技者あるいはチームの代表者により担当総務員を通じて口頭で審判長に申し出なければならない。

審判長の裁定を不服とし、さらに抗議をする場合は、上訴申立書と預託金10,000円を添え、担当総務員を通して上訴することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかつた場合は没収される。この間の事務的処理は担当総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

1.6. 応急処置について

競技中の事故やケガについては医務室において応急処置を行うが、その後の治療は本人の負担とし、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。ただし、2022年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

1.7. その他

1) 公開トレーナーについて

本大会では、トレーナーが競技者のコンディショニングと応急処置を行う。出場者は誰でも利用することができる。

2) 競技会において競技者は携帯電話もしくは類似の機器を競技エリア内へ持ち込んではならない。

上記内容および本大会の規則については、大会役員の協議が最終決定権を持ち、これは変更になる場合があるので、アナウンスや掲示板に注意すること。また、学生競技者としてのマナーに逸脱するような行為があった場合は、処罰を与える。